

病院図書室に看護研究指導室の機能をもたせる試み

宮本孝一

老年学情報センター非常勤司書

老年学情報センターは、東京都立の高齢者医療専門病院「東京都老人医療センター」と老化ゲノム研究と高齢者の社会参加支援研究の研究施設「東京都老人総合研究所（財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団）」の共用図書館である。

老年学情報センターでは、平成 17 年に、非常勤司書 2 名で、東京都老人医療センターの看護師を対象にした 1 回 1 時間のミニ講習会を企画し、実施した。16 年度末に次年度の情報センターの年間計画を話し合った際に、下記の 2 点を情報センターの課題として挙げ、その対応策として発案した企画である。

母体組織（医療センター）の組織的な事業の動きから離れた存在になりがちな状況があり、母体組織の年間事業計画に位置づくような情報センターの事業をもちたい。

グループでの看護研究が盛んだが、情報センターの看護師の利用が非常に少ない。来館者に接していると、基本的な利用方法も知られていないことがわかる。看護研究のサポートを、図書館サービスの柱の一つとして打ち出していく必要があるのではないか。

前例がなく（あったかもしれないが、その事例は受け継がれていない）、開催時期・規模・テーマ・開催までにどこにどのように話を通したらよいかなど、まったくなにもわからないゼロからの出発であった。

まずは、情報センターで講師として準備できそうな内容を挙げ、企画書（ちらしのようなもの）をつくり、各所に相談することから始めた。

そこで挙げた講習会のテーマは、下記の通りである。

情報センターのガイダンス（文献検索から入手までの流れ。その他、設備やサービスの説明）

医中誌 Web の使い方

抄録を Word でまとめる際の手順と、使う機能

Word で、掲示物・配布物を作る際のビジュアル効果のコツ

ここで、いわゆる利用者教育の観点からすれば、図書館の利用方法や医中誌 Web などの文献データベースの利用法指導が、図書館の守備範囲ということになるだろうが、そこに、「ワープロソフトでの抄録（原稿）の作り方」という要素を加えた。

これは、情報センターに、“看護研究指導室”という機能を加えたらどうか、という考えからである。専門図書館一般がどのような状況かはわからないが、病院図書館（室）の司書スタッフの場合は、司書業務以外の仕事も兼ねている例がある。カルテ管理や LAN の管理など。同様に兼任として看護研究指導という機能をもつたらと発想してみた。それは、司書の役割、あるいは、図書館サービスという枠からの逸脱ではあるが、司書にとってユニークな役割をもつのではないかと思われた。

情報要求を持った人がやってきてはじめて機能が発揮される図書館（司書）という従来のあり方から、一步踏み込んで（あるいは、はみ出して）、司書が、研究プロセスの内側の、情報要求が生じ変化していくその場に同席するという機会が得られる。情報要求の発生と情報入手、その情報を得たことで研究の方向がどう動いたかを司書は目撃することができるだろう。図書館サービスの改善を、カウンターのこちら側（司書）とあちら側（利用者）という関係性でなく、利用者グループの一員でもある司書、という視点で見ていくことができるのではないか。

平成 17 年 6 月に、週 2 回・1 回 1 時間程度で、情報センターガイダンス・医中誌 Web の使い方・抄録作成等の講習会などを実施した。参加者は初回は 20 人ぐらい、その後は 10 人前後であった。

さらに 9 月～10 月に、看護研究指導の意味合いをもつ講習会として、表計算ソフト Excel を使ったデータ集計の講習会を企画した。その内容は下記の通りである。また、講習会終了後に情報センターに看護研究の相談が寄せられるようになったが、その中の相談の一つへの対応として、平成 18 年 3 月に、検定手法の講習を実施した。

Excel でデータ集計入門 全 7 回

関数を使ってみよう / 基本統計量を Excel で / ツールバー「集計」の使い方 / 集計の武器「ピボットテーブル」の使い方 / グラフをつくる / Excel で満足度解析 / いろいろなグラフ

Excel で²検定入門 全 1 回

講習会後に寄せられた相談に何日か対応した際、Excel で集計して事象の傾向が明らかになったあとに、その研究を深化させる新しい研究テーマが見つかる例があった。この場合、看護研究の最終段階での相談なのだが、思いがけず、看護研究の開始点である「研究テーマと作業仮説の設定」という場面になった。医療センター看護部事業のグループ研究としては、残念ながらこの研究はここで終了なのだが、もしそこで出た発展テーマから、先行研究の調査・・・と進行すれば、司書としてのサポートも始まることになる。研究から次の研究テーマが生まれる状況を大事にする上で、毎年行っている看護研究のあり方へ、情報センターからなにか提案できることがあるかもしれない。

看護師対象講習会やその後に寄せられるようになった看護研究相談からの、図書館サービスの改善としての具体的な効果はまだない。今年度もミニ講習会を実施するが、それが医療センターの年間研修計画に位置づいているわけではない。しかし、（おそらく、師長グループから院内の看護師への情報センターの案内もあって）、看護師の文献取り寄せ申し込み・貸出・看護研究でのグループ作業・夜間利用といった情報センターの利用は確実に増えている。看護研究についての相談も寄せられる。今年度は看護師院内研修のエキスパートコースで、文献検索と情報処理の講師も担当することになった。

今後も実績を重ねることで、企画当初の目的に近づき、また、病院図書室に看護研究指導という機能をもたせることが、「図書館業務の現状を見る司書の視点」にいかなる変化を生じさせたかという事例も出てくるのではないかと考える。

市民への医療情報提供の実践的取り組み

- 医学・医療情報を扱う図書館として -

杉本節子

大阪市立大学大学院

政府、新聞、テレビ等の各種マスメディアを始め、インターネットの関連サイトでは、日々、医療・健康情報が取り上げられ、情報発信が行われています。一方、一般市民・患者向けに医療情報を提供するもっとも身近な情報機関として、患者図書室、患者情報室、病院図書館、大学の医学図書館、看護系図書館、公共図書館等が様々な医療情報提供を行い始めています。

このワークショップでは、医療情報を提供する図書館に視点をあて、先進的な取り組みや直面する問題点などを参加者の皆様と一っしょに議論したいと考えて企画しました。

市民・患者が気軽に利用でき、利用者の求める的確な資料を提供するためには、図書館間の連携や、医療従事者との連携も必要です。連携の重要性は理念としてはわかっているも、いざ実践となると関係機関の調整が必要となり、実現に至っていないのが現実です。資料を購入するための予算確保や適切な図書の選書も特に重要となってきます。また、図書館員が身につけるべきスキルアップも必要でしょう。いろいろな切り口で活発な意見交換ができればと思っています。京都南病院の山室眞知子氏、高知医療センターの橋田圭介氏、聖路加看護大学看護実践開発研究センター るかなび：聖路加健康ナビスポットの石川道子氏から現状、院内、院外の連携の必要性、その他、課題や問題提起をしていただいた後、参加者の皆様と意見交換を行い、問題整理や解決の方策などを参加者の皆様と一緒を考えたいと思っています。ぜひ、ご参加よろしくお願ひします。なお、後日ワークショップ報告書を作成する予定です。

ワークショップ「市民への医療情報提供の実践的取り組み

- 医学・医療情報を扱う図書館として -

- 16:00 - 16:15 ワークショップの趣旨説明等
- 16:15 - 16:30 京都南病院 山室眞知子氏
- 16:30 - 16:45 高知医療センター 橋田圭介氏
- 16:45 - 17:00 聖路加看護大学看護実践開発研究センター るかなび 石川道子氏
- 17:00 - 17:05 休憩
- 17:05 - 17:40 問題点を整理しながら参加者全員と意見交換をする。
山室氏、橋田氏、石川氏にアドバイザーをお願いする。
- 17:40 - 17:50 まとめ

参考

医療情報をめぐる最近の政府の動向

- 1 厚生労働省 2003年8月 医療提供体制の改革ビジョン - 「医療提供体制の改革に関する検討チーム」まとめ -

骨子の一番目に医療に関する情報提供が提案され、その(3)に根拠に基づく医療(EBM)の促進が挙げられています。計画スケジュールとしては、平成16年度より、一般市民・患者向けに診療ガイドラインが試験提供されています。

- 2 政府 2005年2月 IT戦略本部「ITパッケージ2005-世界最先端のIT国家の実現にむけて - 」

「...住民に身近な地域の情報拠点として、医療・法律・ビジネスに関する情報提供等の多様な図書館サービスの促進・・・」とあります。

- 3 厚生労働省 平成17年7月 「平成18年の医療改革を念頭においた医療制度の見直しの方向性」(中間発表)の内容の一部

「EBM指向の診療ガイドライン作成が進められてきており、疾病毎に診断・治療方法に関する質の高い情報を得ることが可能になりつつあるが、現状では、(中略)国民一般向けの情報整備については研究途上にある。」また、「患者が主体的に医療に参加する環境の整備を図るためには、合わせて診療情報の提供やEBMの定着を図っていくことも必要である。」としている。

付記

2005年12月10日に公開シンポジウム「これからの医療を考える! - 「患者図書館」/「患者情報館」のさらなる発展をめざして - 」を開催し、その報告書が最近やっと完成しました。このシンポジウムの基調講演、事例報告などを通じて医療情報を取り巻く問題点や解決方法が提示されました。この参加者企画にご参加の皆様には、この公開シンポジウム記録を配布する予定です。ぜひ一度お目を通していただけたら幸いです。

図書館を動かす ～ ちいさな図書館 大きな礎～

鷹野祐子¹⁾、加藤麻理²⁾

¹⁾(財)東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所図書室

²⁾三菱ウェルファーマ(株) 創薬本部研究部門研究調整部

病院や企業、専門学校やその他研究所などにおいては、1人～2人という少人数の職員で運営されている図書館＝ワンパーソンライブラリは少なくありません。また、運営母体の状況の変化により、職員数が減少している図書館も存在します。このような危機的状況のなか、ワンパーソンライブラリが持続的に成長していくためには、各図書館のあるべき姿を明文化したものの、つまり図書館運営指針を持つことが必要だと考えられます。

相談相手を持たないワンパーソンライブラリアンにとって、図書館の運営方針に則った具体的な業務指針は、日常の業務で判断に迷ったときの拠り所になり、また、職員の交代や様々な状況変化などの要因で、図書館運営にブレが生じるのを防ぐものにもなるでしょう。加えて、一般的に作業マニュアルとされていたものを運営方針や蔵書構築方針等に明文化し、現場の職員および周囲の関連部署に開示することは、図書館の業務を理解してもらい、存在をアピールすることになります。それは、自身の立場を守ることにもつながると考えられます。

本企画では、図書館のあるべき姿を定義する「基本運営指針」とそれに則った具体的な業務指針として、「蔵書構築」「図書館間協力」「コンピューターネットワーク運用」の3点を取り上げ、攻めの運営を行ってワンパーソンライブラリが持続的成長を遂げていくために、どのような視点を持って業務指針を作成するべきかについて考察を行いたいと思います。グループディスカッションという形をとることで、ワンパーソンライブラリの現場をよりダイレクトに反映できるのではないかと考えます。また、本参加者企画を通して、少人数図書館で働く職員間の連携が深まれば幸いです。

< ディスカッション内容 >

【基本運営方針】

サービスの対象、図書館の特性を踏まえて図書館のあるべき姿＝目的を定義する

【蔵書構築方針】 選書・保管・廃棄

【図書館ネットワークへの参加】 ILL・総合目録・スキルアップ

【コンピューターネットワークの運用方針】 HPの公開・電子ツールへのリンク

参加者の皆様に4班に分け、上記4点についてグループディスカッションを行います。企画の最後に、班のディスカッション内容を発表していただく予定です。開催時刻は大会一日目 16:15～17:30を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

学術情報流通と図書館サービス

- 円滑な流通を求めて -

医療系図書館員学びネット

岩下愛¹⁾、及川はるみ²⁾、熊谷智恵子³⁾、高橋成美⁴⁾、和気たか子⁵⁾

1) 国立国際医療センター、2) 聖路加国際病院、3) 虎の門病院、4) 埼玉県立小児医療センター
5) 藤沢市民病院

近年、医療への関心が高まり、エビデンスのある医学・学術文献の必要性が増しています。医療現場では医学のみならず関連分野の文献が必要であり、最近では特に看護系分野の文献利用が目だって増えています。これらの学術文献は大学図書館や病院図書館、看護専門学校図書館を経由して流通しています。また、医学・医療情報は国民の健康・命に関わるため、誰もがアクセスできる情報としてあるべく期待されています。現在、患者図書室、公共図書館での患者への医学情報サービスが話題になっており、今後は館種を超えた図書館のネットワークがより重要になっています。

一方、現著作権法の下では、病院図書館(室)や看護専門学校図書館(室)は権利制限の対象から外れているとみなされています。しかし、30年前の著作権法制定当時に比べて、学術文献量は格段に増え、医学・医療関係者のみならず患者＝国民全体への文献流通の必要性が問われており、それゆえ、現著作権法 31 条が学術文献の円滑な流通を妨げる一因となっはいけない、という考えもあります。

医療系図書館員学びネット(以下、学びネット)では、第 23 回 MIS 千葉大会・参加者企画として、学びネット第 9 回勉強会「学術文献の流通と図書館サービス - 円滑な流通を求めて」を開催いたします。今回は、日本図書館協会理事・常世田良氏を講師にお迎えして、学術文献流通の視点から著作権問題について参加者と一緒に考えます。

学術文献情報の流通に関わる、多くの病院図書館、看護系図書館、大学図書館、患者図書館(室)関係者の参加をお待ちいたします。

医療系図書館員学びネット

<http://www.geocities.jp/itogakunet/>

